

標 題	松江と出雲の鳥獣被害対策チームでシカ対策等について情報・意見を交換！ ～早い段階から被害を見据えた対策が必要！～
-----	---

(ダイジェスト)

鳥獣被害ゼロを目指す県指定地域については、これまで松江市も出雲市も市の南部側を中心に指定されていましたが、今年度は島根半島側でそれぞれ2地域と1地域が指定されたことから、これら地域で生息が拡大しているシカとイノシシの被害対策について情報・意見交換会を開催しました。

島根半島（出雲北山山地・湖北山地・枕木山山地）においては平成12年頃にシカが出雲北山山地から湖北山地に侵入し、今では枕木山山地まで広がっています。また平成16年頃には湖北山地でイノシシの捕獲と農作物被害が報告され、今では半島全域で拡大しています。



こうした中、今年度、松江市では上本庄地区と大野地区、出雲市では小境地区が県指定地域となり、このうち大野地区と小境地区は同じ湖北山地に存在し、かつ伊野地区（出雲市）を挟んで隣接していることから、今回の情報・意見交換を企画しました。

最初に令和3年度に県指定地域になった（農）みんなのシカ対策について視察し、次いでデントコーンと柿のシカ対策を学んだ後に、伊野コミュニティーセンターで各地域の取り組みについて情報を交換しました。

そして島根半島の鳥獣被害対策に詳しい金森主任林業普及員（出雲事務所）から「島根半島湖北山地におけるニホンジカ、イノシシの生息実態等」と題した説明を受け、現在に至った経過等について理解を深めました。

【説明の要点】

《シカ》

- ・ 明治時代の大乱獲によりほぼ絶滅状態になったが、保護政策等により回復・増加
- ・ 年間20%程度の高い増加率により5～6年で2倍に増加

《イノシシ》

- ・ 明治時代の大乱獲により絶滅
- ・ 原因は特定されていないが、平成16年頃から湖北山地で農作物被害が発生

島根半島内ではイノシシの被害は全域で発生していますが、シカにおいては西高東低のようで、農家からも「シカの目撃は殆どなく被害もそれほどないから、まずはイノシシ対策をしたい」といった声が聞かれます。しかし、猟師が減少していることや天敵がないこと等を考えると、遅かれ早かれシカの被害に直面すると推察されることから、早い段階から地域全体で現状を認識し、その対策を検討していかなければなりません。

今後、県指定地域で研修会等が開催されますが、その際には島根半島でシカとイノシシの生息域が拡大した経過をしっかりと説明し、今後想定される状況を地域全体で共有していこうと思います。

そのためにも、近年捕獲が急増している県央地域の実態を把握するなど、先手先手の情報収集とその提供に努めて行きたいと考えています。